

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 学 術 )	氏名 Author	KHEN SUAN KHAI
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Changing Positions of Key Stakeholders in the Peace Process of Burma/Myanmar: To Overcome Key Barriers Impeding Peace and Development			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教授 片柳 真理	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	教授 吉田 修	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 山根 達郎	
審査委員 Committee	広島大学大学院総合科学研究科	教授 高谷 紀夫	
審査委員 Committee	早稲田大学政治経済学術院	教授 久保 慶一	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本論文は、ミャンマーにおいて現在進行中の和平プロセスの中で、政府、国軍、民族武装集団および政治政党という主要なアクターの立場がどのように変容しているかを分析し、平和と開発を阻害する3つの主要な要因、即ち憲法問題、民軍関係および民族と国軍との間の武力紛争を克服する道筋を探ることを目的としている。</p> <p>論文は6章からなり、第1章では歴史的背景を説明し、紛争の問題を明らかにしたうえで、研究の目的と方法、概念枠組みと構成を述べる。第2章は先行研究および関連する諸理論（人権に基づくアプローチ、水平的不平等、多元的民主主義理論など）を説明する。第3章から第5章では、3つの主要な阻害要因をそれぞれ詳細に分析し、これまでに採択された3つの憲法によって国軍が政治的権力を担保し、いわゆる民主化後も政府はシビリアン・コントロールを確立することができず、分離独立を伴わない自決権を主張する諸民族の苦闘が続いていることを示す。同時に、主要なアクターの立場と、他のアクターとの関係性が変化しつつあることも指摘する。第6章は結論として主要アクターの立場がどのように変容してきたのかを纏め、問題解決のための具体的方策を提案している。</p> <p>本研究は、政府、国軍、民族武装集団、政治政党などの関係者、和平プロセスに関わる研究者等広範なインタビュー調査、フォーカス・グループ・インタビュー、参与観察等を用い、先行研究に含まれていない、まさに現在進行中のそれぞれの立場や考え方の変化を明らかにした点でミャンマーの政治研究に大きく貢献するものである。特に、通常インタビューすることが困難な国軍関係者のインタビューを実施し、国軍と諸民族との間に地方自治に関する共通の視点が生まれてきているのに対し、諸民族の政府に対する不信感が強まりつつあるなどの変化をとらえている点は高く評価することができる。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			